

| Minami Kyushu University Syllabus | | | | | |
|-----------------------------------|--|---------|------|------------------------|------------|
| シラバス年度 | 2023年度 | 国講キャンパス | | 都城キャンパス | |
| 科目名称 | 資源植物生産学特別実験 | | | 実務経験 | Active・L ○ |
| 科目コード | 631204 | 単位数 | 12単位 | 学位授与方針との関連 | DP1, DP2 |
| 教員氏名 | 廣瀬 大介 | | | | |
| 授業概要 | 修士論文作成に必要な実験手法を学ぶ。特に、酵素の分析方法のように素早く、的確におこなう必要がある実験方法について学び、このことにより単に実験方法を会得するだけでなく、同時多発的に発生する種々な物事を的確に判断して処理する方法をも学ぶ。 | | | | |
| 関連する科目 | 資源植物生産学特論Ⅰ、Ⅱ、資源植物生産学特別演習Ⅰ、Ⅱを受講すること。 | | | | |
| 授業の方法と進め方 | 毎回、教員の見本をもとに自発的に実験を進めていく。なお、教員は必要に応じてアドバイスを与える。 | | | | |
| 授業計画 | <p>(授業時間：2年間で360時間)</p> <p>第1回 成分分析1 植物体内の全窒素植物体内の全窒素の分析方法を学ぶ。</p> <p>第2回 成分分析2 植物体内の全窒素植物体内の全窒素の分析方法を学ぶ。</p> <p>第3回 成分分析3 植物体内のアンモニア態窒素植物体内のアンモニア態窒素の分析方法を学ぶ。</p> <p>第4回 成分分析4 植物体内の硝酸態窒素植物体内の硝酸態窒素の分析方法を学ぶ。</p> <p>第5回 成分分析5 植物体内の可給態窒素植物体内の可給態窒素の分析方法を学ぶ。</p> <p>第6回 成分分析6 土壌中の可給態全窒素土壌中の可給態全窒素の分析方法を学ぶ。</p> <p>第7回 成分分析7 土壌中の可給態アンモニア態窒素土壌中の可給態アンモニア態窒素の分析方法を学ぶ。</p> <p>第8回 成分分析8 土壌中の可給態硝酸態窒素土壌中の可給態硝酸態窒素の分析方法を学ぶ。</p> <p>第9回 成分分析9 硝酸還元酵素植物体中の硝酸還元酵素の分析方法を学ぶ。</p> <p>第10回 成分分析10 グルタミン合成酵素植物体中のグルタミン合成酵素の分析方法を学ぶ。</p> <p>第11回 形態調査1 根長根長の測定方法を学ぶ。</p> <p>第12回 形態調査2 根系構造根系構造の分析方法を学ぶ。</p> <p>第13回 形態調査2 根系分布根系分布の分析方法を学ぶ。</p> <p>第14回 複合試験 根の吸水力と根長を同時に測定する方法を学ぶ。</p> <p>第15回 酒造適性検査 オオムギの酒造適性検査方法を学ぶ。</p> | | | | |
| 授業の達成目標 | 毎回、教授された実験方法を理解すると共に複数の問題が生じた場合の迅速な処理方法を理解することを目標としている【知識・技能の育成】【人間力の育成】。 | | | | |
| 授業時間外の学修 | <p>予習：各自で関連する文献を勉強すること（約1時間）。</p> <p>復習：次回のために指導された内容への対応を考える（約1時間）。</p> | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎回、授業後に実験結果について講評する。 | 評価方法・基準 | | 受講態度（50点）、実験結果の内容（50点） | |
| テキスト | 毎回、資料を配布する。 | | | | |

| | |
|-----|-----------------------|
| 参考書 | 土壌養分分析法 新農学実験マニュアル |
| 備考 | |